

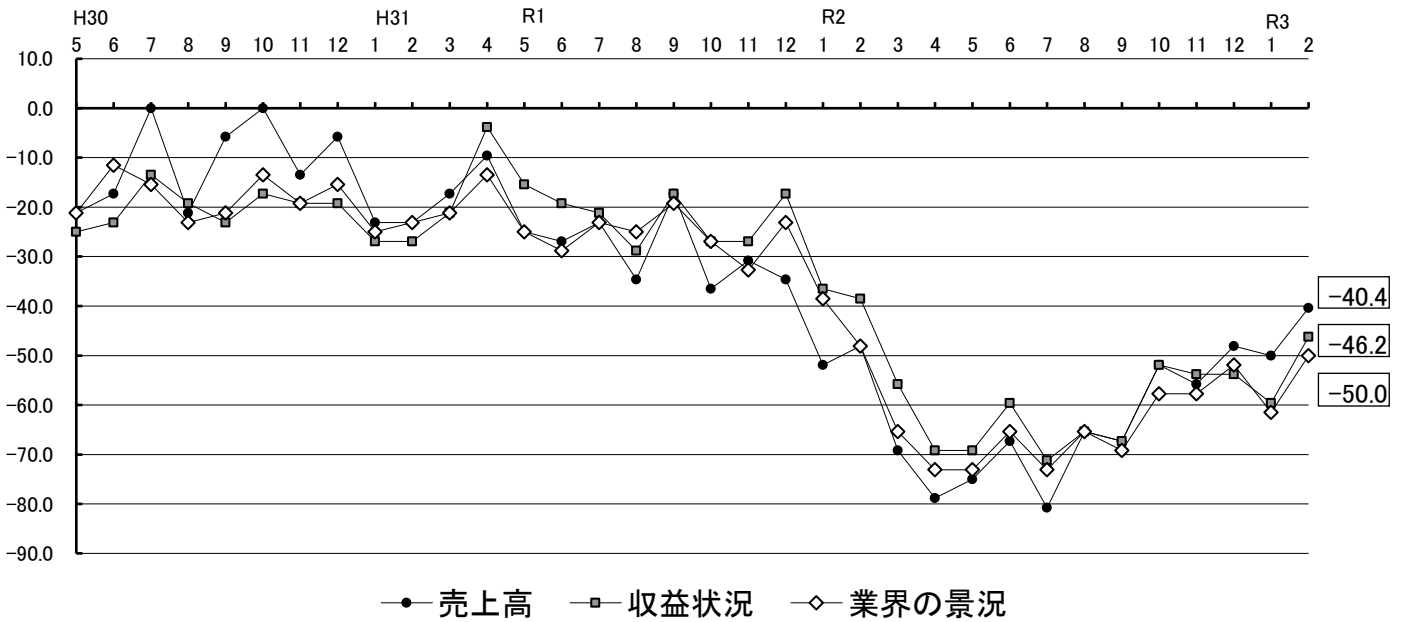
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年2月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標全てが上昇。緊急事態宣言解除の影響と思われるが、厳しいマイナス状態に変わりはない。
- 製造業で「印刷」「繊維・同製品」、非製造業で「小売業」「運輸業」等が特に厳しい状況。
- 宣言解除も長期化する新型コロナの影響により、先行きへの不安は一層強まっている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-40.4	9.6	-51.4	4.4
収益状況	-46.2	13.4	-51.5	3.7
業界の景況	-50.0	11.5	-53.4	4.6

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より9.6ポイント上昇し、-40.4ポイントとなった。全国においては、前月より4.4ポイント上昇し、-51.4ポイントとなった。

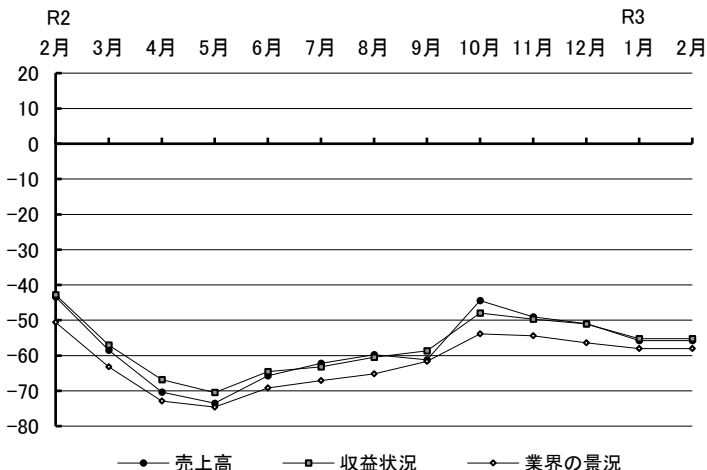
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より13.4ポイント上昇し、-46.2ポイントとなった。全国においては、前月より3.7ポイント上昇し、-51.5ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より11.5ポイント上昇し、-50.0ポイントとなった。全国においては、前月より4.6ポイント上昇し、-53.4ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

2月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中7指標が上昇、1指標が同値し1指標が下降した。主要3指標は「売上高」が9.6ポイント上昇、「収益状況」が13.4ポイント上昇、「業界の景況」が11.5ポイント上昇となった。GoToキャンペーンの効果が表れた昨年10月以来の上昇となったが、昨年2月の数値には届いていない。

業種別・指標別にみると、図表1のとおり、製造業・非製造業共に、主要3指標全ての上昇が見られた。しかし、「印刷」では主要3指標が全て前月に続き-100ポイントとなり、「繊維・同製品」は「売上高」「収益状況」が、「鉄鋼・金属」は「売上高」が-100ポイントと依然厳しい数値を示している。非製造業全体では、主要3指標が昨年11月から連続して下降していたものがようやく下げ止まったが、「小売業」「サービス業」「運輸業」等では依然として厳しいマイナス状態が続いている。

2月8日に本県の緊急事態宣言が解除されたことも影響し、期待値を含んだ上昇が現れたと思われる。新型コロナウイルスの影響が長引く中、多くの事業者が試行錯誤しながら必死に事業を継続しており、ニューノーマル対応や非対面型ビジネスへの転換なども進みつつある。しかし、なかなか終息の見通しが立たない中で企業体力にも限界があり、先行きの見通しはまだまだ厳しいものがある。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	0.0	50.0	0.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0
繊維・同製品	-100.0	-50.0	-25.0	-75.0	-100.0	-75.0	-75.0	-25.0	-75.0
木材・木製品	0.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	-50.0	-75.0
印刷	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0
窯業・土石	0.0	0.0	25.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0
鉄鋼・金属	-100.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	-50.0	-25.0	-50.0
一般機器	0.0	25.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	25.0	0.0	-25.0
製造業	-36.0	-4.0	-4.0	-20.0	-40.0	-20.0	-24.0	-20.0	-44.0
卸売業	0.0	-33.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
小売業	-71.4	-14.3	-14.3	-14.3	-57.1	-42.9		0.0	-57.1
サービス業	-33.3		-33.3	-50.0	-66.7	-50.0		-16.7	-66.7
建設業	-20.0		0.0	0.0	-40.0	0.0		0.0	-40.0
運輸業	-75.0		-25.0	0.0	-75.0	-50.0		0.0	-100.0
その他	-50.0		0.0	0.0	-50.0	-50.0		0.0	-50.0
非製造業	-44.4	-20.0	-14.8	-14.8	-51.9	-33.3		-3.7	-55.6
全体	-40.4	-8.6	-9.6	-17.3	-46.2	-26.9	-24.0	-11.5	-50.0

図表2 【指標別DI値の推移】

	2年												3年	前月比
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
売上高	-48.1	-69.2	-78.8	-75.0	-67.3	-80.8	-65.4	-67.3	-51.9	-55.8	-48.1	-50.0	-40.4	9.6
在庫数量	-14.3	-5.7	-22.9	-5.7	-22.9	-17.1	-17.1	-20.0	-22.9	-22.9	-25.7	-14.3	-8.6	5.7
販売価格	-3.8	-11.5	-7.7	-15.4	-13.5	-7.7	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-7.7	-13.5	-9.6	3.9
取引条件	-11.5	-15.4	-23.1	-26.9	-19.2	-15.4	-21.2	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	-15.4	-17.3	-1.9
収益状況	-38.5	-55.8	-69.2	-69.2	-59.6	-71.2	-65.4	-67.3	-51.9	-53.8	-53.8	-59.6	-46.2	13.4
資金繰り	-17.3	-38.5	-53.8	-55.8	-51.9	-51.9	-48.1	-42.3	-28.8	-26.9	-26.9	-26.9	-26.9	0.0
設備操業度	-24.0	-28.0	-64.0	-72.0	-56.0	-68.0	-56.0	-52.0	-40.0	-48.0	-32.0	-36.0	-24.0	12.0
雇用人員	-1.9	-3.8	-11.5	-11.5	-19.2	-15.4	-9.6	-15.4	-9.6	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	2.0
業界の景況	-48.1	-65.4	-73.1	-73.1	-65.4	-73.1	-65.4	-69.2	-57.7	-57.7	-51.9	-61.5	-50.0	11.5

特記事項

情報連絡員報告（令和3年2月分）

所属組合	特記事項
和洋菓子製造業	新型コロナウイルスも1年経ち緊急事態宣言も解除となり、今後に期待したい。
あん類製造業	少しずつ好転してきている。特に規模の大きい企業程、上向いているようだ。
酒類製造業	年末年始の売上げの減少が続いており、業界全体が沈んでいる。今冬の酒造りはそろそろ終了となるが、製造数量も落ち込んでおり、酒米の在庫が多く次年度が恐ろしい。
縫製業	生産量が少なくなり1型あたりの数量も減少し、少ロットの為に生産性が低下し、収益状況が悪化し、厳しい状況が続いている。
外衣・シャツ製造業	オリンピックをやるかやらないかによるが、祭り・イベント事は7月まで中止が多い。
染色整理業	新型コロナウイルスの影響はまだ治まらず、良い見通しはない。
網・網・レース・繊維粗製品製造業	1月後半から2月にかけて徐々に春物商品用の需要が出てきたが、昨年の同時期と比べると売り上げは半分くらいである。少ない需要とはいえ、短納期で生産することが求められるので、人員配置、材料調達等を含めた生産管理体制構築が大変である。
一般製材業	県内緊急事態宣言による影響等はあまり受けていないが、事後的な景気不安が懸念される。
家具・建具製造業	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、依然受注が低迷している。
建具製造業	年度末に向け、滞っていた案件が一気に動いている。ただし賑わいも一時か、先は見通せない。
印刷業	コロナ禍に見舞われてから約1年が経つが、需要の低迷からも先行きまだまだ厳しい状況に変わりはない。多くの組合員が試行錯誤を経ながらコロナ禍に対応している。
石灰製造業	鉄鋼向けは、徐々にではあるが出荷増となってきた。肥料関係は、昨年並みの推移をしている。建材関係は、生コン向けや公共工事など新規工事の減少により落ち込んでいる。全体では、昨年並みとなった。
陶磁器製造業	陶器市の中止が大きく、観光客も新型コロナウイルスの影響で減少し、売上げも落ちている。
金属製品製造業	家電はほぼ変わらないが、自動車がまだ戻らない。
金属製品製造業	自動車部品関連・機械設備関連・プレス金型関連いずれもコロナ禍により、売上低下、人件費増加、人手不足の状況が続き、業況が低下した。
一般機械器具製造業	今月の売上高等の減少はやや鈍化しつつあるが、収益状況悪化懸念は継続中である。操業度のやや回復傾向の企業が多くなってきている。先月に引き続き、組合員企業の努力により、新型コロナウイルスの長期にわたる影響を最小限にとどめようとする行為が感じ取れる。今後の動向に注視しつつ各組合員企業の適切な対応を期待し、見守りたい。
一般機械器具製造業	売上が前年並みの水準に回復してきたものの、コロナ前（一昨年）と比較すると20%の減少である。コロナ前の回復は期待できないため、新常态における消費動向を見据えた経営を組合としてサポートしていかなければならないと痛感している。
一般機械器具製造業	自動車・建機関係業界がかなり動き出したので、一部製造業に日が差してきた感がある。また、建設業の方も年度末に向けて若干上向き加減になってきた。介護関係は、相変わらず、人手不足で困っている。その為、早急な技能実習生の入国を希望する。

各種商品卸売業	引き続き新型コロナウイルスの影響を受けており、全体として売上高減少、業況悪化と厳しい状況は続いている。会館会議室の利用状況は国の緊急事態宣言解除後、予約が徐々に回復してきた。
食肉小売業	飲食店は、時短営業で補助金をもらい助かっていると思う。宴会・結婚式は、全く無い状況で、お客様の動向が悪く売れ行きが良くない。
各種商品小売業	感染症防止の緊急事態宣言が解除され飲食店にはやや客数が戻りつつあるが、全体として来街数の減少は続き、大変厳しい経済環境下にあると思われる。全業種共に売上げ減の月であった。
各種商品小売業	2月中旬に解除されたとはいえ、緊急事態宣言が発令されたことで大幅に売り上げが落ち込んだ。コロナ禍も1年経つが厳しい状況は続いている。
花・植木小売業	統計開始以来もっとも早い春一番が発表されたと思えば、一転して冬の寒さに逆戻りするなど、一定しない天候が続いたが、日中の日差しはだいぶ暖かくなり春の訪れを感じる。市場では桃の節句・雛祭りを前に、花桃を始めとして春の花々で賑わいを見せた。2月トータルの市況は、入荷量が前年比で約90%、単価が同95%。婚礼や葬儀は個人、法人共に小規模化が急速に進んでいる。小売店の動きも鈍く売り上げは大きく減少した。
理容業	感染症の影響で、来客者数が減少し、収益悪化の店舗が多く見られる。また、組合員の高齢化もあり、廃業を余儀なくされた組合員も見受けられる。早急な対応策が必要である。
自動車整備業	繁忙期に入り、設備操業度もやや上昇傾向有り。
旅館・ホテル	栃木県の緊急事態宣言は解除となったが、首都圏の宣言解除に影響されるため、市内全域のホテルの稼働率は40%にも届かない状況である。宴会は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言により100%ダウン。飲食店は、加えて時短営業・休業もあり70%ダウン。
ビルメンテナンス業	緊急事態宣言下で宅配関連の倉庫内作業の受託量が増え、増収増益となっている。
給食センター	売上高は、新規事業である惣菜の製造販売により、前年同月より増加したが、他の分野が新型コロナウイルスの影響で、依然として昨年度より減少である。雇用の確保、事業の継続をするためのキャッシュフローは、国・県の制度融資でなんとかこなしていたが、新型コロナウイルスが終息せず、収益・資金とも悪化し始めている。
内装工事業	今期も残すところ2ヶ月余りとなり、微増ではあるが業績も回復しつつある。但し、対前期と比較すると売上高においては各企業とも約70%前後で推移している。
貨物軽自動車運送業	自動車部品関連の配達が少しずつではあるが戻ってきている。県内全域に関連している企業があるので、組合員も少しではあるが期待がもてる状況になりつつある。好調なのは、建築資材や食品類で、近県から遠方まで様々な依頼がきている。引越しの予約も前半戦を終えて、例年通りの状況だが、今年は県内の引越しが圧倒的に多く、コロナ禍の傾向なのか注視している。
一般乗用旅客自動車運送業	2月8日に緊急事態宣言が解除となったが、飲食街の時短営業等も長引き街中の人通りは依然として少なく、タクシーのお客様待ち時間は2時間以上となり大変厳しい状況が続き苦慮している。
大谷石採石業	受注が少ない状況に変わりはない。